

Q1： 「道徳の時間」の評価は、どのように行えばよいですか。

はじめに
 道徳の時間のねらいは、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することです。

授業における学習評価は、教師の意図的な指導の結果、児童生徒が学習内容をいかに身に付けたかを明らかにするものです。道徳の時間においても、指導のねらいを明確にし、児童生徒の心の動きの変化を様々な方法で捉え、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める学習ができたか否かを評価することが必要になります。また、教師自らの指導を評価するとともに、指導方法等の改善に努めることが大切です。

道徳の時間の特質



教師は、ねらいとする価値、児童生徒の実態、資料や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択し、指導の効果を高める工夫をすることが大切です。その際、以下に示した道徳の時間の特質を踏まえ、授業のねらいに迫るための手立てを講じることが重要です。

- 【参考資料】**
- ・小学校学習指導要領解説道徳編P.29
 - ・中学校学習指導要領解説道徳編P.30
 - ・現職教育資料 第463号(県教委H25.6)

◆道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める学習とは…

① **道徳的価値について理解する。**
 道徳的価値が人間らしさを表すものであるため、同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

価値理解	… 道徳的価値は大切であること
人間理解	… 道徳的価値は大切であるが実現は難しいこと
他者理解	… 道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があること

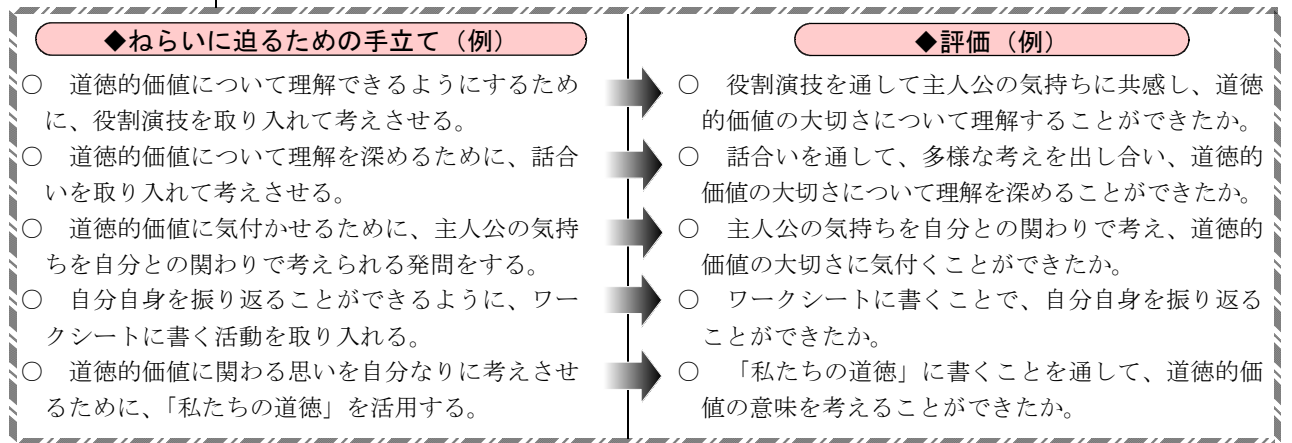
② **自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる。**
 自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられることにあわせて、自己理解を深めていくようにする。

③ **道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う。**
 道徳的価値にかかわる思いや課題を培うために、道徳的価値を視点に自分自身を振り返るようにする。また、その中で自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにする。

「初等教育資料3月号」(文科省 2011)より

評価の実際

教師は、授業のねらいに迫るための手立てが適切であったかどうかを評価することが求められます。なお、どのような手立てを講じるかは、教師の意図によります。評価の場面は、授業のねらいに強く関わる中心発問や振り返りの場面に設定することが考えられます。以下に、授業のねらいに迫るための手立て(例)とその評価(例)を示します。



学習指導案への位置付け

学習指導案に位置付ける場合は、「本時の評価」として位置付けたり、「展開」の「指導上の留意点」の中に位置付けたりすることが考えられます。

おわりに

道徳の時間は、児童生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものの、可能な限り児童生徒の変化を捉え、日常の指導や個別指導に生かしていくように努めることが大切です。